



2023年度（令和5年度）

「第2回 不登校を考える学習会」を行いました。

2023.10.14(土)

小郡市人権教育啓発センター

演題：「不登校支援の輪をひろげよう」

第2回の不登校を考える学習会を10月14日（土）に開催しました。

今回の講師に、これまで何度もご講演していただきました、不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長の木村 素也(きむらもとや)さんをお招きしました。

木村さんは、福岡市立中学校の元校長先生で、福岡市内の公立中学校で38年間にわたり教員生活を送られました。現在も『不登校支援の親の会』の活動をサポートし続けておられ、子どもに寄り添い、困っている生徒や保護者に関わっていらっしゃいます。今回の学習会では、「ぼちぼちの会」の活動に関わってこられた保護者の牟田恵美子さんにもお話ししていただきました。今回の学習会には52名の方にご参加いただきました。学習会の内容についてご紹介します。



○ 増加する不登校の子どもたち

木村さんから、最近の不登校の状況についてのお話がありました。不登校の子ども数は年々増加傾向にあり、ここ数年は、これまでのペースを大幅に上回る勢いで増えているそうです。特に、実際の不登校の子ども数は、現実の数と大きくかけ離れていることや、不登校になる事情のちがいで集計にばらつきがあることなども教えていただきました。不登校の子ども数の増加傾向の背景には、これまでの原因とは別に、「無理して学校にいかなくてもいいんだよ」という保護者の考え方に変化が見られるようになってきたことが大きな背景にあること、そして、今後もこの状況は続いていくこと、一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな対応の必要性が高まっていくことなどが予想されています。



○ 子どもの自尊感情を大切に…

不登校の子どもたちの気持ちもこれまでの「罪悪感」から、「劣等感」へと変化している実態について丁寧に説明していただきました。学校に通えなくなった結果、対人関係や学校集団生活も苦手になり自尊感情が低下している子どもたちがいます。成長の過程における周りの大人たちの関わり、特に、子どもの自尊感情を大切にする環境づくりが大切であり、家庭だけでなく、学校や地域に話せる関係がある人をつくる必要性についてお話ししていただきました。「人の話をまずは聞くこと。でもその通りにはしなくていいです。」という言葉が印象的でした。参加者アンケートから「自分はこれまで、いろいろな話に振り回されていたのかも知れませんが」、「木村さんの考え方がすごく斬新でした。」などのご意見をいただきました。



○ 同じ親として 体験者として

学習会の後半では、保護者の牟田恵美子さんからのお話がありました。牟田さんは3人のお子さんの不登校を経験され、子どもへの関わりには三者三様だったそうです。親の考え方や価値観を押し付けがちになっていたことや当時は気持ちも体もいっぱいいっぱいでしたが今振り返ってわかることや気づくことがたくさんあるという、当事者ならではの体験談をお話ししていただきました。不登校になった子どもを育ててきたという「体験者」だからこそそのお話しに、熱心に聞き入る多くの参加者の姿が見られました。



参加者アンケートより

- 3人の子の母親として大変参考になりました。勇気づけられました。
- 胸が張り裂けそうになりました。子どもの立場に立つことを大切にしたいです。
- 毎年、木村先生のお話を聞きに来ています。ぜひまた参加したいです。ありがとうございました。
- ありのままを受け入れる心優しい社会になってほしいです。
- 実際に経験された話だけにすごく参考になりました。もっとお話を聞きたいです。
- 学校に行かなくてもいいというような声かけをしている自分の言動を振り返りました。保護者の会は必要ですね。
- 孫の学習に対する意欲の低さが気になっていました。今日のお話はとても参考になりました。
- 今日の話はぜひ学校の先生方にも共有していただけたらよかったですと思いました。
- 不登校を考える学習会ですので、小郡市の状況についても知りたいです。

